

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4770700179		
法人名	医療法人 上善会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム星のふる里		
所在地	沖縄県石垣市字新川2105番地		
自己評価作成日	令和5年12月16日	評価結果市町村受理日	令和6年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4770700179-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4770700179-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和6年1月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人内にて、病院、通所、訪問看護ステーション、居宅事業所、老健が併設し、外部事業所と多くの設備が整い、連携し地域医療・介護ケアに努めています。勉強会、講習会など、法人内での取り組みも盛んで、職員の知識向上を図る機会が多くあります。グループホームでは、全職員が介護福祉士の資格を持ち専門的な介護ケアを利用者様に提供しています。食事など、人気メニュー・行事・郷土料理を取り入れ、施設の畑で収穫した農作物を使用した食事を提供し、利用者には大変喜ばれています。災害時には、併設された病院、老健施設等の協力体制を整えています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の法人本部は隣接する医療法人であり、老健や通所、訪看、居宅事業所も併設され医療、福祉の連携のもと運営されている。月例の「業務開発委員会」においてグループ全体で共有すべき課題等について話し合わせ、その結果を事業所職員が全員参加の「介護ミーティング」(月例)の場で共有されている。コロナ感染緩和後、法人主催の「秋まつり」(11月)の再開や地域の中学生、高校生と行っていた訪問交流も復活して徐々にではあるがコロナ前の状態に戻す取り組みを行っている。かかりつけ医は事業所に隣接する法人本部の病院を利用して、常時医療的支援を受けられることができている。食事は職員の手作りで提供されていて、入居者はできる範囲で野菜のつくろいや配膳、下膳に参加してもらい楽しく食事ができるように努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示し毎朝の申し送りで勤務者全員で唱和し確認しています。利用者様の意思や人格を尊重し、その人らしく生活できるよう支援しています。	事業所の法人本部は隣接する医療法人であり、老健や通所、訪看、居宅事業所も併設され医療、福祉の連携のもと運営されている。月例で行われる「業務開発委員会」においてグループ全体で共有すべき課題等について話し合わせ、その結果を事業所職員全員参加の「介護ミーティング」(月例)の場で共有され理念についても確認の場となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、法人での秋まつりなどで地域との交流を図っています。これからは、地域の行事の参加や子供達との交流、色々な場所に行き交流を行っていききたいと思います。	コロナ禍の中、地域との関わりは希薄とならざるを得なかったが、コロナ感染緩和後、法人主催の「秋まつり」(11月)の再開や地域の中学生、高校生と行っていた訪問交流も復活し、徐々にではあるがコロナ前の状態に戻す取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・高校生などの福祉・職場体験を受け入れを行い、身近に接することで認知症の方を受け入れ、少しでも理解する場を設けていきたいと思います。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で意見が出た際は、職員に伝え、できる事は早めに取り組みむように努めています。行政や地域住民の方からの情報収集、交換も行い、アドバイスを受けケアに努めています。	運営推進会議は2か月に1回開催され、行政の担当者、包括センター、民生委員、家族代表、入居者の参加により開催されている。事故、ヒヤリハットについても報告されている。参加者の意見等について迅速な対応に努めることを心掛け、必要な情報は介護ミーティングの場で事業所の運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か相談、疑問がある場合は、行政に連絡し、意見や確認、助言を頂いています。	運営推進会議での行政関係の参加者からの意見や課題、問題点についての助言は介護ミーティングの場で検討した上で事業所の運営に反映し、次回の運営推進会議につながるよう取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会などに参加し、普段から意識付けを行っています。運営推進会議で委員会を設置し開催。行政、地域住民、知見者、家族様より意見を頂き、拘束しないケアに努めています。	身体拘束適正化委員会は運営推進会議後に毎回開催されていて、知見者からの意見を職員で共有しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束の適正化に関する指針、マニュアルの整備、研修会も3か月に1回開催されているが、身体拘束適正化委員会の「委員会名簿」が整備されておらず早期の作成を望みます。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会の参加、マニュアルの作成し、普段から職員に意識付けを行い、利用者様の尊厳を忘れずに接し、虐待を起こさせない環境作りを行っています。	虐待防止に関する、指針、マニュアルが整備されていて、虐待に関する研修会もテーマを決めて年2回行われている。管理者は職員が虐待について問題行動がみられた際は都度注意を行うとともに、月例の「介護ミーティング」においても情報共有を行い虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その人らしく暮らし続けるように支援するには、権利擁護や成年後見人制度について、職員間で学機会、勉強会を持ち活用していきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、利用する際、丁寧に行っています。説明後、疑問・不安・要望があれば聞き入れ、説明を行い理解、納得されたうえで契約されています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様や親類等の面会時、要望、苦情、ご意見があれば聞き入れるよう職員には周知徹底しています。その都度対応し、職員への情報共有し、話し合いを行いケアに取り組んでいます。	コロナ禍の影響で家族との面談が途絶えていたが、感染緩和措置後は週1回の割合で居室での面談を再開し、徐々にコロナ禍前の状態に戻つつある。また、入居者の通院支援のため家族が訪問した際や、家族が差し入れに訪れた時には積極的に声をかけ、家族からの要望や意見の吸い上げを心掛け運営に反映している。	コロナ禍の影響で家族との関係が希薄になっていることから、家族向けに満足度調査(アンケート)を行い、事業所側から家族の意見や要望について積極的に吸い上げる取り組みに期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から意見や相談がある場合は、その都度聞き入れており、毎月のミーティングでは意見や問題点を皆で話し合い、ケアや業務に反映されています。	管理者は年2回の人事考課を行い、職員のスキルアップに努めるとともに、普段から職員とのコミュニケーションを心掛けている。 職員からの意見や改善点については「介護ミーティング」の場でも取り上げて情報共有に務め運営に反映している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回(夏・冬)個別面談を行い、目標や不安点改善点、良い・悪い点、など職員の意見や意向を聞き、上司からはアドバイスをを行い、働きやすい環境作りに努めています。	管理者と職員は人事考課や普段のコミュニケーションを通じて働きやすい環境の整備に努めている。人事考課の際には本部担当課長も同席し「個人目標カード」をもとに職員個々人の目標達成具合について話し合いが行われ、職員のやる気を引き出すことに取り組んでいる。職員の定期健診もを行い健康管理に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では学習委員会主催による、各委員会の勉強会や講師を招いての研修があり、QR読み取りで携帯での動画視聴で、職員全員が勉強会に参加出来るように取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過で同業との交流ができていませんが、交流する機会を設け、情報収集、意見交換を行い、ネットワーク作りを行い、サービスの質の向上に努めていきたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い、利用者様、家族様と共にあったサービスの提供に努めています。入居当初は馴染むことが出来ず、戸惑いがあると思いますので、声かけ、傾聴し利用者様に寄り添い本人の思いは確認しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当時に、家族様の不安や要望を聞き入れ、利用者様が不安なく、安心して生活が送れるように支援しています。又入居後も訪問時に状況報告し、家族様への配慮を欠かさず関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・入居についての話し合いの際は、本人・家族様の意向を確認し、利用者様本人が必要としているサービスの情報を提供して頂き、当施設に該当しない場合は該当しない事を説明し、他施設に紹介を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、日頃から「させて頂く介護」あなたがいてくれるから私たちがいる。共に支え合う共同生活者として、関係を築いていくように促します。又、人生の先輩から学ばせて頂いているという姿勢を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や病院受診のお願いをしたりと、日頃から連絡を取り合い、コミュニケーションを図り、行事などの参加、協力して頂くこともあり、家族様と職員が利用者様を支えていく関係を築いています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の面会。行事での外出。これまでの付き合いを大切にし、関係が途切れないように支援しています。	コロナ禍で途絶えていたイベントも徐々に再開され、昨年は設立20周年記念イベントの開催や秋には敬老会も復活して、家族や馴染みの方の参加を促しながら、コロナ禍前の状態に戻す取り組みが進んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士の席の配慮や、職員が間に入り孤立しないように、日常生活を支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され、他の施設に移動されても、面会に伺ったり状態・状況確認しています。家族様より相談があった場合は支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いは、日頃の会話の中や表情等で把握に努めており、家族様よりも聞き取りを行い必要支援を行っています。	入居者は本部の医療法人や老健施設などからの入居が多いため、入居前から本人や家族の意向や要望について情報共有をすることができるため、スムーズな入居に繋げる仕組みができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報収集や、入居時に本人や家族様から聞き取り。新しく得た情報を、再度職員で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の様子を日々を観察し、情報共有の為、申し送り、介護日誌の記録に残しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の状態の変化に、随時職員と話し合い、職員ミーティングの議題にも取り上げます。定期的に担当者会議を実施し、家族様からの意見を取り入れながら情報収集し、ケアプランの見直しを行い作成しています。	職員は日頃のケアの中からモニタリングを行い、月例の「介護ミーティング」の場でカンファレンスを行い、家族からの意向も取り入れながらケアマネジャーを中心にケアプランに反映する仕組みができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の中から、日々の様子や状態の変化の確認を行い、職員からも聞き取り、情報収集に努め、介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診など家族様にお願いしていますが、付き添いが困難時や急変時は、職員で対応しています。家族様には連絡し状況報告しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議など地域の方も参加されるので、地域での情報や資源など、教えてもらいながら、活用できる事は取入れ実施しています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設されている為、いつでも受診できる体制や医療面に関して相談できる状況にあります。	かかりつけ医は事業所に隣接する法人本部の病院を利用しており、常時医療的支援を受けることができています。家族の受診支援のもと、本人、家族、事業所の間で医療情報を共有し適切な医療支援に繋げている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週8時間の配置があり、バイタルチェックや薬の管理を行っています。又、利用者の変化があった時は報告し、相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医療機関と連携を密にし、入院先の担当看護師や相談員などから情報収集して連携をとっています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、本人、家族様の希望を確認し、そのうえで事業所内で出来る範囲を説明し方針を共有しています。医療機関に希望がある場合は関係機関と連携を行っています。	重度化に対する対応については、入居時に本人、家族に丁寧に説明しながら対応している。看取りに関しては隣接する本部医療法人で行うため、事業所での看取りは行われていない。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故に対応出来るようにマニュアル作成。又、職員間で話し合いを行い、看護師に相談、勉強会を行っています。	利用者の急変や事故の発生については対応マニュアルが整備されていて、入居者の急変や事故が発生した場合は、本部法人の医療機関との連携のもと、対応すべく初期対応訓練も行っている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的の実施している。	消防訓練、防災訓練は職員が実践できるようになっており、併設の病院、老健施設の協力体制はとれていますが、地域との協力体制はとれていません。感染症予防、まん延防止の為に指針は作成中で、法人全体で研修及び訓練を定期的に行っています。	防災訓練は、年2回隣接する本部医療法人や老健と連携しながらテーマを決めて行われ、訓練実施後の反省点や課題の整理が行われているが、次の訓練では課題が訓練テーマに上がっていない。課題改善が継続する訓練を行うことに期待したい。感染症防止、まん延防止に関する指針、マニュアルを整備するとともに防災に関する研修、訓練に取り組んでいる。	



自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライベート空間の邪魔にならないよう、配慮しています。又、言葉つかいや態度で利用者様を傷つけないように、職員同士注意しながら対応しています。	管理者は職員が入居者のプライバシーに関する問題行動が見られた場合はその都度注意を行いながら、朝、夕の引継ぎミーティングで情報共有を行い改善に努め、必要な場合は介護ミーティングの場でも話し合いが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動時は、参加の意思を本人に確認し声かけを行い、希望や自己決定が出来るように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の様子や意思を確認し、利用者様の過ごしやすいうように、時間などに配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや身だしなみなど、本人に確認しながら行っています。意思決定が難し方には、洋服や汚れがあった場合には、着替えるなど清潔保持に努めています。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材、行事食、郷土料理、人気メニューの取入れ、利用者様から聞き取りを行い食事の提供をしています。野菜のつくろいをお願いしたりと食事の準備の手伝いをして頂いています。	食事は職員の手作りで提供されていて、入居者はできる範囲で野菜のつくろいや配膳、下膳に参加してもらい楽しく食事できるように努めている。利用者の好みの食事を聞き取りながらメニューに反映している。大晦日や敬老会などのイベント食にも積極的に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートにて毎日の食事・水分の摂取量を記入し、確認しています。水分・食事の摂取量が少ない方には、本人が好きな物を提供し、個々に合わせた食事形態を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後、見守りや声かけしながら行っています。入れ歯の状態を確認しながら、洗浄が上手に出来ない方には支援を行い、常に清潔保持に努めています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、それに応じた排泄の声かけや誘導を行い、排泄介助を行っています。利用者様によって排泄動作等が違う為、職員間の情報共有に努め、統一したケアを実施しています。	入居者個々の排せつ情報を先回りで見極めることで、タイムリーなトイレ誘導に結び付けることを心掛けている。昼間は入居者全員がトイレでの排せつできるように誘導し、夜はポータブルトイレの利用を行うなど、入居者個々の状況に合わせた排せつ支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品や植物繊維を多く取り入れるように工夫しています。又、レクリエーションで体を動かしたり、散歩したり、活性化に取り組んでいます。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴支援を行っています。利用者様の希望に応じて時間や曜日の変更を行っています。体調不良で入浴できない時は、入浴日の変更や清拭を行う事で皮膚の清潔保持に努めています。	週3回午前中の中の入浴(シャワー浴)を基本にして、毎日入浴したいという入居者もいて、その日の体調に合わせて柔軟に対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせ、入眠時間は本人に声かけし確認し、本人のペースで対応しています。本人が休まれるまで、ゆっくり出来るようにテレビを観たり、談笑したりされています。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は訪看にて、1週間分のセットを行い、個々の服薬一覧表を確認しながら誤薬防止の為、再度確認しています。薬の変更時は、申し送りやメモに残すなど、情報共有に努めています。	事業所は本部法人の看護部との連携による「服薬管理マニュアル」を整備し、入居者個々の1週間分の服薬セットを看護部が行い、職員は服薬の都度確認を行い誤飲防止に努めている。また、看護師は毎日入居者を訪問し入居者の情報を事業所と共有し、服薬に関する勉強会も「介護ミーティング」の中で行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中、本人が出来る作業をお願いしています。気分転換に、散歩や机上活動、懐メロなど音楽を聴かれています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様には、感染予防に努めて頂きながら、冠婚葬祭等の外出支援の協力をして頂いています。	コロナ感染防止の緩和を受けて、入居者の体調をみながら外気浴を兼ねた散歩を行い、徐々にではあるが外出支援の範囲を広げている。家族による冠婚葬祭等への外出支援も再開した。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金預かりを行っており、本人の必要物品の買い出しは職員で行っています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけられるよう支援しています。本人が電話をかけたい時は、手紙のやりとりは、その都度対応しています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一年を通し、季節感を感じて頂けるように、季節に応じた装飾作りを利用者様と作成し、飾りつけを行っています。フロアでは、民謡や懐メロを流し歌ったり、DVD観賞されたりとゆっくりくつろいでいます。	コロナ等の感染防止を心掛けて定期的な換気、テーブルの消毒を行うと共に、入居者は食前、食後の手指消毒を励行し感染防止に努めている。リビングには季節感のある装飾を手作りして飾るなど、リラックスできる雰囲気作り心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でゆっくりされたり、テレビを観たり、机上活動されたり、職員と談笑したりと、個々での居心地のよい居場所づくりを提供しています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族様からのプレゼントされた物品や写真を飾りつけをしています。	コロナ等感染防止を心掛けて定期的な換気、ドアノブの消毒を職員が行っている。部屋内はクーラー、洗面台、整理ダンス、ベッドが常設されていて入居者の持ち込み品も自由であり、家族からのプレゼントや写真が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ、分かりやすい表記を多くし、見守りだけで施設内を移動したりと、残っている機能を最大限に活かし、自立した生活が送れるように支援しています。		